

みづかな川調べ

川にすむ生きものから、川^ぐのよごれ具合^{あい}を調べてみよう

川の中にはさまざまな生きものがすんでいます^{かわぞこ}が、特に川底にすんでいる生きものは、過去^{かこ}から今までの長い時間^{ずいじつ}、水質^{すいしつ}の状況^{じょう}を反映したものです。ですから、どのような生きものがすんでいるかを調べることで、その場所の水質の程度を知ることができます。「きれいな水」「少しきたない水」「きたない水」「大変きたない水」にすむ生きものには右のようなものがあります。

みづかな川の生物調査結果

平成17年6月～10月に、府内の小中高生等約1,000名が参加して、府内68地点で水の中の生きものの種類や数から、水のきれいさを調べたところ、全調査地点の約60%で「きれいな水」(水質階級^{すいしつかいきゅう})と判定^{はんてい}されました。

この調査は平成18年度も実施する予定です。

(京都府環境管理室^{かんきょうかんりしつ}TEL075-414-4711)

<p>きれいな水</p> <p>ヒラタカゲロウ カワゲラ</p>	<p>少しきたない水</p> <p>ゲンジボタル ヤマトシジミ</p>
<p>きたない水</p> <p>ミズカマキリ タニシ</p>	<p>大変きたない水</p> <p>セスジユスリカ アメリカザリガニ</p>

くわしくは、京と地球の環境ホームページ <http://www.pref/kyoto.jp/kankyo> 『地球環境科学教室』の『水生生物で川の水質を調べよう』でみることができます。

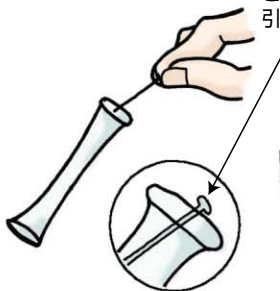
水質測定器具でCODを測ってみよう

COD(シーオーディー)というのは川の水にふくまれる有機物^{ゆうきぶつ}の量を表すものです。有機物は川に住む微生物^{びせいぶつ}の栄養分となりますが、多すぎると水をよごす原因となります。CODの値が大きいほど川の水は汚れています。



ほかにも、こんな方法で川^{かわ}のよごれ方を調べる^{しらべ}ことができるよ。

この部分をつまんで引き抜いてください



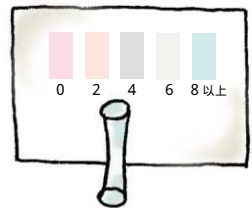
チューブ先端^{せんたん}のラインを引き抜きます



中の空気を追い出す



スポイト式に半分ぐらい吸い込む



色の見本と比べ値を読みとる

バード 野鳥ウォッチングをしてみよう

京都で見られる鳥たちには、四季を通じてすんでいる「留鳥」、春に南方からわたってきて夏にかけて(5~6月)府内ではんしょくする「夏鳥」、冬をすごすためにわたってくる「冬鳥」などがあります。また、京都を通りこして北や南へ行く途中で立ち寄る「旅鳥」もいます。



オナガガモ 写真提供:(財)日本野鳥の会京都支部



ヒドリガモ

このうち冬鳥は、『京都の野鳥図鑑』(京都新聞社刊)によれば83種で、ほかの種類より一番多く観察されています。冬鳥は毎年9月から10月ごろにシベリア方面からわたってきて冬を越します。そして4~5月ごろには帰って行き、そこでたまごを産み、ひなを育てます。

水鳥たちの楽園はどこなところ?

京都府南部の桂川・久我橋(京都市南区)あたりは水鳥たちの楽園です。川の流れはゆるやかで、中州もあり、ヨシ原が広がっていて、水鳥たちが集まるのにとってもよい所なのです。このあたりで観察されるガンカモ科の冬鳥は、淡水にすむカモ類のヒドリガモ・オナガガモ・コガモ・マガモ・ハシビロガモなどです。1回の観察会で、2000羽近く見られたこともあったそうです。

水鳥たちはどこからやってきて、どこへいくのでしょうか。水鳥たちを観察してみたら、きっといろんな発見があるにちがいありません。そしてヨシ原をはじめ、鳥たちに食べものとするみかを与えてくれる豊かな自然のことを考えてみてください。

野鳥を観察してみよう

遠くから観察することが多いので、倍率6~8倍の双眼鏡を用意しましょう。観察するときは、まず肉眼でたしかめてから双眼鏡で見るのが大切です。

「いつ」「どこで」観察したかを記録しよう。

鳥の種類は羽の色や体の形などスケッチして後で図鑑で調べよう。

エサやエサの取り方などの行動も観察しましょう。わたってきた時期、去っていった時期なども記録しよう。

(財)日本野鳥の会京都支部ホームページ
<http://www.mmjp.or.jp/WBSJ-Kyoto/>
バードウォッチングの方法、京都の探鳥地、野鳥ギャラリーなどが見られます。

川や池へ
行くときは落ちない
ようにじゅうぶん
注意しようね。

